



会報 No.151 令和5年3月号

かけがえのない子ども・子育ての素晴らしさ

八王子市子ども家庭部長 設 樂 恵

保育協会の皆様におかれましては、幼児教育・保育現場の最前線でご尽力をいただき、誠にありがとうございます。

乳幼児期は生涯にわたる身体育成・人格形成にとって極めて大切な時期ですが、感染防止策を取りながらの園の運営には、大変なご苦勞があったことと思います。中でもマスク着用による幼児教育・保育活動は、表情という感情表現を子どもに伝える視覚的コミュニケーションが取りづらいだけに、園の皆様が様々な工夫を凝らして遊びや体験を通じ、子どもたちの生きる力となる学びや自己肯定感、規範意識等の醸成に、ご奮闘いただいておりますこと、改めて感謝を申し上げます。

最近では、3年ぶりに復活するイベントも増え、講演会やシンポジウムなどもオンラインから対面に戻るなど、コロナとの共存による新しい日常にシフトしてきています。

新型コロナウイルス感染症は、国が感染症法上の位置付けを令和5年5月8日から季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げる方針を決定しています。幼児教育・保育活動にかかる具体的な対応等については、情報があり次第、速やかに判断の上、情報提供してまいります。

さて、国では、加速的に進む少子化を社会経済の根幹を揺るがす危機的状況であるとして、令和5年4月には「こども基本法」を施行し、常にこどもの最善の利益を第一に据えた「こどもまんなか社会」構築のため、新たな司令塔として「こども家庭庁」を設置し、「次元の異なる少子化対策」を推し進めるとしています。また、東京都では、令和4年4月に「チルドレンファーストの社会」を実現するため、「子供政策連携室」を設置するなど、子ども・子育て支援の新たな潮流が動き始めています。市では、令和5年4月から市の最上位計画である「八王子未来デザイン2040」をスタートさせ、重点テーマに位置付けた「未来の主役づくり」に、時機を逸することなく取り組んでまいります。

一方、これら少子化対策の背景において憂慮しますのは、常に「子どもは大変なもの」「子育ては大変なもの」といったマイナスのイメージばかりが強調される点についてです。子どもを産みたい、育てたいという希望や、虐待となる前に一歩踏みとどまる力につなげるためには、マイナス面での不安や負担の軽減だけでなく、大変さの中にも、それを上回るほどの命の尊さや、子育てにおける発見や感動、共に成長できる喜びなど、子ども・子育てとは、かけがえのないものであることもあわせて、より社会に強く認知される必要があり、実感できる政策が重要となります。

貴協会主催の「TOKYO保育フォト展in八王子」では、写真に映し出された子どもたちや保育士の皆さんのキラキラと輝く笑顔に、多くの方が心癒されたことと思います。

幼児教育・保育活動は、子どもたちのあらゆる可能性を引き出すだけでなく、その素晴らしさを発信することで、社会における子ども・子育てへの理解を深め、ひいては子育て家庭の孤立や虐待防止にも寄与するものと感謝をしております。誰一人取り残さず、すべての子どもたちの成長を社会全体で支える「こどもまんなか社会」の礎となるものであり、今後も引き続きのお力添えをお願いいたします。

全 体 会 報 告

令和5年1月31日

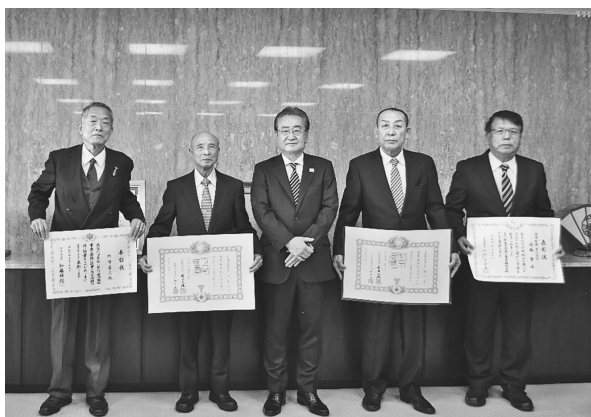
令和5年1月31日に京王プラザ八王子4Fにて、約3年ぶりに対面で全体会を行いました。

秦副会長から開会の宣言があり、石井会長のご挨拶で始まりました。

コロナ禍の中で、令和元年～令和4年に表彰受賞をしてお祝い出来なかったため、この場を借りて、受賞者に花束を贈ることが出来ました。

- ・藤井保育園 榎原美代子先生 令和元年度 厚生労働大臣表彰
- ・打越保育園 光宗 政治先生 令和元年度 東京都功労者表彰
令和2年度 厚生労働大臣表彰
- ・めじろ保育園 柘澤 章次先生 令和3年度 東京都功労者表彰
令和4年度 厚生労働大臣表彰
- ・大塚保育園 石坂 芳先生 令和4年度 東京都功労者表彰
- ・なみのり保育園 石井 廣治先生 令和4年度 春の叙勲 瑞宝双光章受賞
- ・さつき保育園 斎藤 和巳先生 令和4年度 秋の叙勲 瑞宝双光章受賞

受賞された先生方、おめでとうございます。八王子市保育協会から沢山の先生方が受賞されている事を誇りに思います。



令和5年2月16日 市長に表敬訪問



令和5年1月31日 花束贈呈

八王子市の行政説明では、子どもの教育・保育推進課の米村様、秋元様からは、「国から登園バス等におけるバスに安全対策装置を設置することが義務付けられるという通知が来ており、八王子市では補正予算で対応する予定だが、国や都の情勢を見ながら検討する事。また、安全計画の策定、BCPの作成等の準備が必要となる。経費補助金が出る予定だが要綱がまだ出ていないので要綱が出たら通達する」。保育幼稚園課の大垣様、山波様からは、「原油価格、物価高騰対策として、給食費の値上げを行わない施設に対して補助を行う予定。詳細は後日連絡する。また光熱水費等の補助に関しては、公定価格や国、都が対応する可能性があるため、その様子を見てから決定する。また一次募集の状況について令和4年度とほぼ横ばいとなっており、1歳児クラスの申し込みが増えて、0歳児クラスが減少している。育児休業制度の浸透により1歳からの入園希望が増えている」と説明を頂きました。

各部会・委員会・各団体報告があり、ブロック会を行い次年度の役員改選や指導検査など各ブロックで話し合いました。決まったブロック、決まらなかったブロックとありました。

久しぶりの対面とあって会話が盛り上がっていました。次年度の定期総会は対面で行い情報交換、永年勤続者の表彰もしたいとの事でした。

(落合)

シリーズ 私の保育園

みなみ野さゆり学園

園長 谷 合 悦 子

みなみ野さゆり学園は、八王子みなみ野の七国地区にあります。法人内の由井さゆり学園に次いで平成14年に2番目に出来た園です。19年間、保育園として運営し、昨年度より幼保連携型認定こども園に移行しました。園が設立された当初、周辺は何もなく、広い土地に1園建っているだけでしたが、今では小中学校に医療モール、そして住宅が建ち並び、八王子有数の住宅街となっています。

私たちは「やわらかな教育・保育」を目指して、個に寄り添い、個を育てています。3歳児以上になると、体育指導・リトミック・こぐまチャイルド会・英語・茶道のカリキュラムを取り入れ、様々な分野を経験する中で、五感を磨き、自分の好きなことを見つけ、自己肯定感を高めることで自信を持って小学校へと就学出来ることを願っています。4.5歳児は情操教育の一環として、八王子乗馬倶楽部のインストラクターの指導の下、ポニーのお世話や乗馬体験を行っています。

そして、学園の自慢は園庭にある築山です。築山には沢山の木々や花々が植えられ、四季を感じさせてくれます。中には卒園児が卒園記念として植えてくれた枝垂れ桜やハナミズキもあり、花が咲く度に卒園児を思い出します。中央にはこの20年で立派に育ったもみの木があり、クリスマスの飾り付けをして、光輝くイルミネーションに子どもたちは目を輝



かせています。築山は子どもたちにとって憩いの場。よちよちお散歩をしたり、元気いっぱい走り回ったり、虫探しに夢中になったり。そして、土管のトンネルは子どもたちの秘密基地になっています。このように、「静」と「動」のメリハリをつけた教育・保育を心掛け、やる時は真剣に取り組み、遊ぶ時は主体的に思い切り遊びこめるよう、日々過ごす時間の中でバランスよく取り入れています。

姉妹園であるさゆりの丘学園には、広大な畑と竹林があり、食育活動の一環でさつまいもや大根の栽培を3園一緒に行っています。苗植え・種まきから行い、収穫・調理をして自分たちで食べることで、食に対する興味や関心が高まっています。春には笥堀りを体験し、堀りたての笥の味は格別です。夏は学園のプランターで夏野菜を栽培しています。

行事も数多く行っていますが、中でも一番盛大な行事は、12月に行われる「クリスマス会（発表会）」です。愛と真心をもったカトリック精神を基にしているさゆり学園のクリスマス会は、年長児による聖劇から始まります。これは由井さゆり学園の開園当初から受け継がれています。各学年、年齢やその年の子どもたちの特性に合わせた内容となっており、保護者の方は、沢山の笑顔と感動の涙を流してください。

幼保連携型認定こども園への移行に伴い、地域の方々にも気軽に遊びにきていただける、憩いの場となれるよう、月2回、子育て広場を行っています。法人内には高齢者施設もあるので、高齢者の方との



交流も徐々に再開できれば…と願っています。有り難いことに1号認定のお子様のご利用も増え、様々なニーズの方に利用していただいております。「地域に根付いた学園」の基盤が少しずつ出来ていると感じております。

そして、子どもたちが毎日楽しく過ごすためには、

まずは職員が楽しく仕事に励むことです。これからも職員同士、助け合い、支え合うことでチームとして成長していき、保護者の方に安心してお子様を預けていただけるよう、そして子どもたちには「今日も1日楽しかった」と思ってもらえるような、笑顔溢れる学園作りを目指してまいります。

多賀保育園

園長 佐久間 祥子

本園は八王子市役所の南側の閑静な住宅地の中に位置します。歴史は古く昭和26年に「八王子市立多賀保育園」として設立し、平成20年に指定管理園として、社会福祉法人愛和会が担い、この4月で15年目を迎えます。住宅地に囲まれています、広い園庭、近くには河川敷や沢山の公園があり四季折々の自然に触れたり、遊び場には困りません。園庭では鬼ごっこや大縄跳び、夏には泥んこ遊びを楽しみ誰だか分からないくらい真っ黒になりダイナミックに遊んでいます。園庭の片隅では食育活動として、じゃがいも・大根・小玉スイカ・トウモロコシやキュウ



りなど毎年色々な野菜を種から植え、生長の過程を観察したり交代でお水をあげ、収穫したものを調理し美味しく頂いています。

コロナ禍で色々制限されていましたが、去年は園庭で運動会が開催でき保護者の方にも喜ばれました。大切にしていることの一つに「挨拶」があります。人として大切なこと。コミュニケーションの第一歩。朝の「おはようございます」から始まり降園時の「さようなら」まで色々な場面でのあいさつをして、それが自然と声に出して言える…習慣は大切ですね。これからも園児・保育者が共に毎日楽しく過ごし、ずっと保育園にいたいと思える保育を提供し、職員一同真摯に取り組んでいきたいと思っております。



編集後記

新型コロナウイルス感染症も一区切りし、少しずつ新しい生活が戻りつつあります。

マスクに対する対応も緩和されましたが、マスク無しの生活オッケーにはまだ戻れません。

個人的にはもういらなと思います。もうすぐ春が到着します。梅の花が終わりお寺の桜がつぼみを膨らませてきています。皆さんの園でも卒園、入園とお忙しく過ごされたことと思います。「別れがあるから、出会いがある」と、あるアーティストの言葉です。子ども達は、汗びっしょりになって園庭で遊んでいます。いつも笑顔な子ども達、私達大人も笑って生活をしましょう。(野上)